

チーム開発実践入門

6.4

Jun Kimura

Overview

6.4 Configuration

- Chefを利用したアプリケーションインストール、設定の自動化
- Serverspecによるテスト

時代はChefよりAnsible
Chef使ってるの小学生までだよね~
(AA略

今日の内容

1. 書籍の内容をさらりと
2. 6.4 Configurationで解説しているのと同等の内容をAnsibleでやってみる
 - VagrantでCentOSにApache入れてPort80でListen
3. Serverspecの部分は書籍と同じようにやります

Configurationしない問題点

- 一台環境つくれても次に同じのが作れる保証がない
 - インストール手順書書いても伝わらない
 - 細かいバージョンが合っていないことも
- 手動なので時間がかかる
 - リリースの度にやる羽目になつたら。。。。
 - 1000台用意してってなつたら。。。。

そこで Chef Ansible

Ansibleで出来ること(書籍に倣うと)

- ・ブートストラッピングの一部(AWS, Azure上のVM構築)
- ・コンフィギュレーション
- ・オーケストレーション(もやりようによっては)

実行パターン

大きく分けて2つあり、状況に応じて使い分ける

1. Ansible実行サーバー(ホスト)からターゲット環境をコンフィギュレーション
 - ホストからターゲット環境にはSSHで入り、コンフィギュレーションする(エージェント不要)
2. ターゲット環境自身にAnsibleをインストールして自律してコンフィギュレーション
 - ホスト側にAnsibleが不要

手順

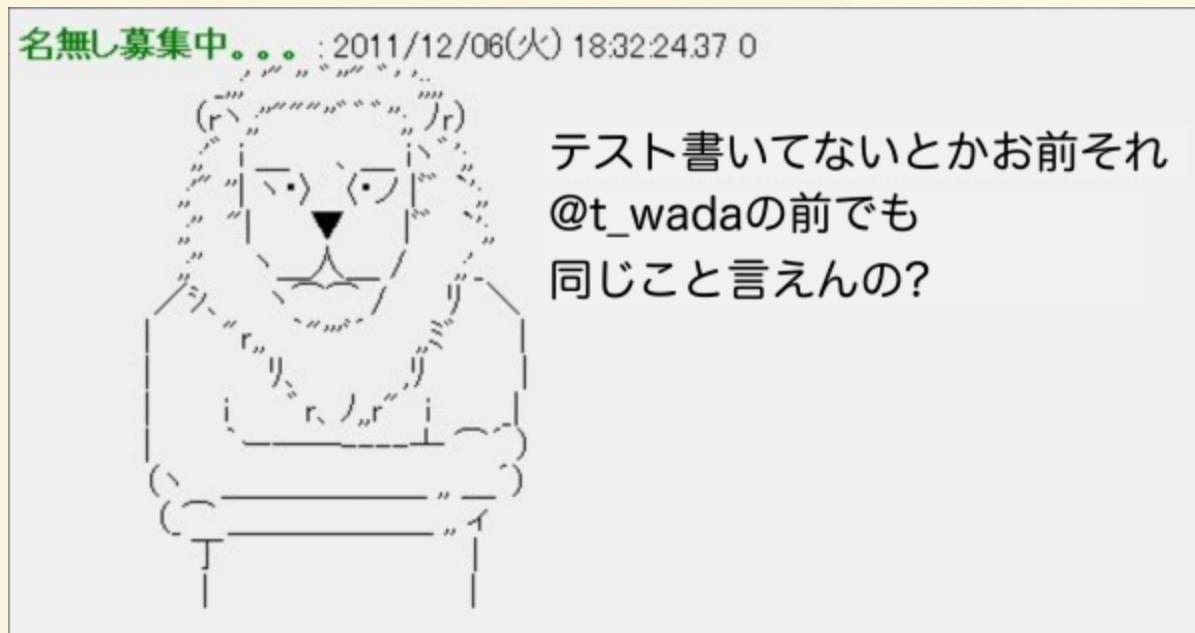
- 基本は2つのファイルを作れば良い
 - playbookファイル:手順を管理
 - inventoryファイル:実行対象のサーバーを管理

注意事項

- Windowsはホストになれません。。。
- Windowsユーザーの人はvirtualboxでAnsbleのホスト環境を作って下さい
 - もしくは実行パターンの2を使う

Ansible最高じやん

ちょっとまで、テストはどうした？



Serverspec

Serverspecで出来ること

- Configurationした環境のテスト
 - インストールされているか。サービスが動いているか。ユーザーが作成されているか等々。。。

Ansibleもテスト出来るんだけど。。。。

- 色々な考え方がありますが、受け入れテスト(検算)をする手段は別の方が安心感ありますよね

実行パターン

大きく分けて2つあり、状況に応じて使い分ける

1. Serverspec自身が動いている環境のテスト

- Serverspecの設定を行う場合に利用するイメージ

2. SSHでアクセス可能なリモートサーバーのテスト

- 実際の利用はこっちがメイン

手順

- 基本は2つのファイルを作れば良い
 - playbookファイル:手順を管理
 - inventory:実行対象のサーバーを管理

実演

今からやること

1. Ansibleの入ったコントローラ(CentOS)から
Ansibleを使ってターゲット(CentOS)にApacheの
インストール
2. コントローラからServerspecを使ってターゲット
に作られた環境のテスト

おわりに

- 実はConfiguration自体、考え方が結構古くなりつつあります。。。
 - Herokuを代表とするPaaSの世界では必要のない話
 - dockerだったらdockerfileで結構書けちゃうし。。。
- こんなのもあるんだなくらいの認識でも良いとおもいます
 - もちろん、VMやハードウェアが必要な環境なら役に立ちます

参考になるリンク

- [Ansibleをはじめる人に。](#)
- [AnsibleによるInfrastructure as code入門](#)
- [WikiPedia\(Ansible\)](#)
- [「Serverspec」入門 記事一覧](#)

以上です。

ご清聴ありがとうございました。